

政治・外交・通商・歴史学

大日本文明協会 編 明治期の 米日外交史観

中央大学文学部教授 佐藤元英 監修・解説

全5巻

大日本文明協会は大隈重信が中心となり、明治 41 (1908) 年 4 月に設立された (のち大正 14 (1925) 年、「財団法人文明協会」に改組・改称)。

同協会は国民の知識レベルの向上や進歩のため、世界の名著の和訳刊行を通じて海外の先進的な知識を紹介した。さらに大正 7 (1918) 年からは各界の第一人者による講演会事業も行っている。

明治政府にとって、欧米政府との外交は、幕末以降に結ばれた不平等条約をいかに改正するかの戦いでもあった。ここに挙げた資料は、協会の刊行した対米関係に焦点を当てた貴重な外交資料である。

当時の外交状況を掴む一助になれば幸いである。

クレス出版

明治期の米日外交史観 大日本文明協会 編

『明治期の米日外交史観』刊行にあたって

中央大学文学部教授 佐藤 元英

大日本文明協会は、明治四十一年（一九〇八）年四月に創立された。会長は早稲田大学総長に就任していた大隈重信である。同協会の目的は、「欧米最近の思想を移植し、真に活動的国民たるの品格の涵養に努め、以て新興の国運に必ずる新文化開進の基礎に貢献せんことを期す」ことにあり、その方法として「当代の碩学に依頼し、欧米最新の名著中、最も健全にして我国に薦めて適当なるものを選択し、達意を主として簡明に和訳し、或は編纂し、若くは世界最近の思潮を窺ふに足る学者の新書を上梓」することであった。

大隈は刊行の辞において、以下のとおり述べているが、まさに大正デモクラシー期最大の出版事業となった。「他国の学者が研究の成果を発表説明した新著の翻訳は、我が国の学術の振作に刺激を与える必要條件である。『現代真個の大学は書籍の蒐集に在り』という諺がある。然るに東洋には古来書籍少ならずと雖も、多くは過去の経典、史類、または随筆、小説などである。万有の法則を穿ち天然の勢力を征服するに足るべき科学的知識の提供については甚だ乏しい。そこで、本協会の事業が真に文明国民に必須なる高等教育を社会に普及し、将来大学教育を一般民衆に与える一助となるべきは疑をいれず」（大正元（一九一二年）年十月）。

大日本文明協会の叢書は、大正十（一九二二）年頃までに、百九十五冊に及び、その後も同協会は、大正十一（一九二二）年から昭和二（一九二七）年の間に『精訳叢書』六十巻を刊行しつづけた。この叢書から五冊を選定して「明治期の米日外交史観」とした。アメリカおよび日本が互いに明治期の外交について、それぞれどのように観察・研究していたのかを知り得る好書である。

明治期の米日外交史観 内容紹介

第1巻 米国の対東外交

米国の対東外交
●大日本文明協会編／明治四五（一九一二年）年（原書一九〇四年）／大日本文明協会
【内容】第一章 欧州諸国東洋交通の初期／第二章 米日交通の第一期／第三章 初期の支那条約／第四章 独立の布哇／第五章 日本の開国／第六章 日本の変遷／第七章 支那の障壁崩壊／第八章 支那人の移住と排斥／第九章 朝鮮と其隣邦／第十章 日本の特権回復／第十一章 布哇の併合／第十二章 サモア事件／第十三章 米西戦争と其結果／附録

第2巻 世界的米合衆国

世界的米合衆国
●大日本文明協会編／大正二（一九一三年）年（原書一九〇八年）／大日本文明協会
【内容】緒論／第一章 建国及発展／第二章 国民性と移民／第三章 人種問題／第四章 理想と標語／第五章 モンロー主義／第六章 米西戦争／第七章 植民地の獲得／第八章 菲律賓問題／第九章 経済上の問題／第十章 合衆国と仏蘭西／第十一章 合衆国と独逸／第十二章 合衆国と露西亞／第十三章 合衆国と英国／第十四章 合衆国と加奈陀／第十五章 地峡運河／第十六章 合衆国と拉丁亜米利加／第十七章 太平洋に於ける合衆国／第十八章 合衆国と支那／第十九章 合衆国と日本／索引

第3巻 日米交渉五十年史

日米交渉五十年史
●大日本文明協会編／明治四二（一九〇九）年（原書一九〇九年）／大日本文明協会
【内容】第一章 日米交渉の発端／第二章 神奈川条約の締結／第三章 ハルリスと

第十章 日本の権利回復

日本開港後数年間を着色せし政治の紛擾及び攘夷運動の過半鎮定するや政柄を執るの士は世變に隨ひ國土を經營するの業に着手せしが不期の新困難に遭遇せり是より先日本人は外交の術に慣熟せずして其運用小兒の如くペリー提督にハリス公使の起稿せし條約と他國が之に倣ひて作成せし者と皆受動的に之を採納したるに過ぎざりしことは既に説述せし所の如し然れども日本の政治家は明敏にして國を愛するの念深く早くも其國の隳廢状態に陥れることを發見し苟も此境遇を脱せんと思はば非常なる知慮忍節制を要すべきことを自覚せり。

第1巻 『米国の対東外交』より「第十章 日本の権利回復」

第八章 支那人の性格

第一節 グツラの研究

グツラフー功名富貴は人生の目的。支那人の唯一の性。彼等の動機。感受性。支那人にして基督教に回信せば。尙ほ多き國民。食物。結婚。孝道。死後に希望を有せず。住居。商業精神。言語の特質。學問。宗教。永く支那に居住し支那の事情に通じたる英國の牧師チャールズグツラフーは、一八三四年『支那人の性格』を著して彼の支那研究を披露せり。書名は即ち支那人の性格第三卷支那人の性格習慣産業國語學問及び宗教を叙する所十九世紀初年に於ける英人の支那観として大に傳説に値するものなくんばならず。即ち茲に之を紹介す。

「國民にして世襲の貴族なるものを有することなく専ら功業によりて位階を定むるものありとせんには吾人は是を以て最も高尚にして且つ自由なる主

第4巻 『欧米人の極東研究』より「第八章 支那人の性格」

『米国の対東外交』の著者ジョン・W・フォスターはハリソン大統領期の國務長官であり、明治二十七年、八年の日清戦争に関わり、日清講和談判の際には清國の顧問として来日している。「世界的米合衆国」の著者A・C・クリッジはハーバード大学の史学教授である。米合衆国の膨張と世界の大勢に関する米国の外交政策を、外交文書に依拠して論述されたものである。本書の末章において日米間の移民問題が取り上げられている。

北崎進『日米交渉五十年史』は、大日本文明協会が当該研究の第一人者北崎に執筆を依頼したものである。そこで論じられていることは、明治維新以来の日本の外交の主題が、「条約改正」と「対韓問題」の二大問題にあったこと、日露戦争の勝利によって概ね解決し、その後のさらなる外交の二大問題は、「満洲問題」と「対米問題」に変容したことがある。「満洲問題」は日清交渉事件に止まらず世界的外交問題であり、また、「対米問題」は東西文明、黄白両人種に関わる人道問題、人種問題である。この二大問題の解決に資すべき各種の問題を調査研究し、國際的平和維持、東西文明の調和を保つことに邁進することを怠るべきではないと、本書では主張している。

しかし、歴史の運命は日米対立の萌芽とも言うべき「満洲問題」「人種問題」を解決できずに、アジア太平洋戦争へと繋がっていく。今改めて「明治期の米日外交史観」（全五巻）を通して、明治期外交の実像に迫ることができよう。

第4巻 欧米人の極東研究

安政条約／第四章 維新前後の日米干渉／第五章 条約改正と日米交渉／第六章 布哇と日米干渉／第七章 東亞問題と日米干渉／第八章 日露戦争と米日／第九章 日米国交の波瀾／第十章 日米の協調

第5巻 國際的現代日本

國際的現代日本
●大日本文明協会編／大正三（一九一四年）年（原書一九一四年）／大日本文明協会
【内容】序論／第一篇 日支關係／第二篇 日露關係／第三篇 日英關係／第四篇 日米關係／第五篇 墨西哥及南米諸國との關係／第六篇 日独關係／第七篇 日仏關係／第八篇 伊太利及其他諸國との關係

第三章 移民

佛國植民地中我が國に關係最も深きは印度支那にして南太平洋中なるタヒチ、群島之に次ぎ、阿弗利加のマガダスカール島にも少數本邦人の移住を見る。印度支那は東洋に位し其の面積日本全土より大にして近年益々開明に赴きつつあり。佛國が廣州灣に有する東洋艦隊は同植民地の有力なる保護者たることを失はず。其の經濟的に政治的に東洋に覇を唱ふる日本との貿易は近年に至り漸盛に赴きつつあるに似たり。雖其の他の關係殊に移民上より之を見て、未だ大に開却しつゝあるものあるの感なき能はず。印度支那は交趾支那を除くの外戸籍調査なきを以て其の精確なる人口を知るに極めて困難なるも、同地に於ける人口は總計約一千六百六十萬安南人最多數を占め支那人二十五萬人歐洲人一千人にして日本人の茲に移住する者に至りては僅に三百五十人を數ふるに過ぎず。

一九一三年に於ける貿易關係を見るに、我が國より印度支那への輸出總額は百五萬五千九百九十四圓印度支那より我が國への輸入總額は二千四百六十九萬九千八百九十四圓にして我が輸入貿易より見れば同植民地は重要な位置を占めつつあるに拘らず我が輸出貿易は其の二十分の一に過ぎず實に微々たる状態にありと謂はざるべからざるなり。

左に、日本對佛領印度重要輸出入貿易三年間對照表を示さん。

品名	輸出	輸入
米	1,000,000	500,000
小麦	500,000	1,000,000
砂糖	200,000	1,000,000
茶	1,000,000	500,000
胡椒	500,000	1,000,000
香料	1,000,000	500,000
その他	500,000	1,000,000

第5巻 『國際的現代日本』より「第七篇 日仏關係」

明治期の米日外交史観 佐藤元英 監修・解説

第1巻	米国の対東外交	定価20,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-064-9
第2巻	世界的米合衆国	定価20,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-065-6
第3巻	日米交渉五十年史	定価20,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-066-3
第4巻	欧米人の極東研究	定価20,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-067-0
第5巻	国際的現代日本	定価20,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-068-7
		揃定価100,000円 (税別)	ISBN 978-4-86670-069-4

A5判／上製函入／クロス装／C3320／2019年 6月25日刊行

クレス出版の好評既刊書 (すべて税別／A5判／上製函入／クロス装)

日本外交史料集 全3巻 外務省調査部 編纂 揃定価45,000円

満州事変を機に、国際的孤立を深めていった昭和12年、14年に外務省調査部が編纂した日米、日英の外交史料。当時の日本が外交問題をどのように対応したか一、現在の「世界の中の日本」がどうあるべきかを考える一つの示唆となるであろう。

●日米外交史 全1巻

定価10,000円 ISBN 978-4-906330-69-0

●日英外交史 全2巻

定価35,000円 ISBN 978-4-906330-68-3

外務省執務報告

●東亞局 全6巻

揃定価135,000円 ISBN 978-4-906330-84-3

●欧亞局 全3巻

揃定価 70,000円 ISBN 978-4-906330-85-0

●通商局 全4巻

揃定価106,000円 ISBN 978-4-87733-003-3

●條約局(2巻)、情報部、調査部、文化事業部 全5巻

揃定価114,000円 ISBN 978-4-87733-004-0

日露講和関係調書集 全9巻

明治期外交資料研究会 編・解説

揃定価145,000円 ISBN 978-4-906330-99-7

日本国ト大東亞諸国トノ條集

外務省條約局 編纂

定価20,000円 ISBN 978-4-87733-078-1

第二次世界戦争関係條約集

外務省條約局 編纂

定価32,000円 ISBN 978-4-87733-079-8

世界大戦関係日本外交文書

〈昭和14年版〉外務省調査部第一課 編

定価30,000円 ISBN 978-4-87733-043-9

日支間並支那ニ関スル

日本及他国間ノ条約

〈大正12年版〉外務省条約局 編

定価30,000円 ISBN 978-4-87733-044-6

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名